

05 年 06 月 27 日 ■山本美保さん関連…やはり遺体は別人の可能性が高い

調査会では本日以下の文書を発表しました。この間情報をお寄せくださった皆様に感謝申し上げます。

山形の漂着遺体のジーパンについて

去る 6 月 12 日、調査会のメールニュースでジーパンのブランドについての情報提供の依頼をしました。

このジーパンは昭和 59 (1984) 年 6 月 21 日に山形県遊佐町の海岸に漂着した遺体の女性 (以下、「Y」) が穿いていたものです。すでにご案内の通り山梨県警はこの遺体が DNA 鑑定の結果同年 6 月 4 日に甲府市の自宅を出たまま行方が分からなくなっている山本美保さんであると発表しています。

これまでに集められた情報を総合すると、概ね次のようになります。

当該のジーパンは、ペダルプッシャー (前ポケットが特徴) で 1980 年代に入り日本で爆発的に流行ったジーパンである。デザインから推測すれば、フランスのデザイナー、マリテ & フランソワ・ジルボー夫妻のものと酷似している。ジーパンの前に、斜めに皮をつけるのは、ジルボー夫妻の特徴である。本物は、直輸入であれば当時の値段で、15000 円もした。

しかし、このジーパンはジルボーのものと異なる部分も少なくない。例えば、ジルボーというデザイナーは、後ろのポケットに、大きなラベルをつけることをしない。特に、クラシック・カーといったデザインはしない。ジルボーの製品であれば、ボタンに「ジルボー」もしくは「MFG (ジルボーのイニシャル)」が刻印されているので判る。ボタンまでコピーする、ということは当時としてはあまり考えられない。この点は確認出来ていないが、とりあえずはコピー製品の可能性が高いように思われる。

コピー品とした場合、当時は中国で作ったとは考えられず、東南アジアかも知れないが、このジーパンの特徴である革をデニムに縫い合せている技術はある程度高度なものであり、当時は人工皮革などをジーパンに使うことはなかったと思われる。また、革の偽物は無かったと考えられる。これらのことから推測して、このジーパンも少なくとも 1 万円近くはするであろう。

すでに明らかになっているように、このジーパンは洗濯をしていたお母さんも、双子の妹である森本美砂さんも見ることがないものでした。しかも大きさは28です。28でもメンズとレディースで大きさは異なりますが、美保さんの穿いていたジーパンはメンズの29ないし30でした。メンズであつても28は穿けなかったはずとのこと。Yは下着のサイズ（ガードルが64）からしてもかなり細目の人と思われまゝ。さらに、当時の山本家の方針からして高価なジーパンを、しかも双子の姉だけに買い与えることも考えられません。以上から考えたとき、このジーパンを山本美保さんが穿いていた可能性は限りなくゼロに近いと言えるでしょう。

警察は山本美保さんに限らず、拉致の認定については「間違っていたら北朝鮮側の大反撃を受ける」とのこと、石橋を叩いても渡らないような慎重さ（何と2年半で1件）を示しています。それなのに、Yについてだけは、DNA以外のほとんどの条件が異なっており、そのDNAも再度の検証ができないにもかかわらず山本美保さんであると断定しています。そして県警発表文には唐突に「自殺の可能性はある」としているのです。Yが美保さんであつて自殺の可能性があると公に発表できるなら、特定失踪者も100人位あつという間に認定に持っていけるのではないのでしょうか。

警察、とりわけ山梨県警は納得のいく説明を関係者にする義務があると考えます。誠意ある対応を期待するものです。

平成17年6月27日
特定失踪者問題調査会代表 荒木和博